

科目名称：	経営学入門	
担当者名：	小原 慎平	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
本講義の目的は、経営学で使う視点と基礎知識の習得です。どのようなことも、個人で実行しようとするれば様々な面で限界にぶつかります。ビジネスでも同じく、個人の限界を超えるには他者との協働が不可欠です。経営学では、この協働に必要な人の集団と、その協働の円滑な運用に注目して観察や分析を行います。本講義では、集団内のあり方、集団全体としての舵取りについて、基礎的な経営学の知識を扱います。		
授業の達成目標・到達目標		
①経営学の視点と基礎的な知識を理解する ②学校生活や就職活動、その他の社会生活において、経営学の視点や知識を応用できる ③上記①と②をもとに、企業経営に伴う諸問題について議論や意見交換ができる		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)	60		30	10	100
ビジネスDP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考
課題の提出等でGoogle Classroom を利用します。学生用メールアドレスを利用可能な状態にしておきましょう。

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
経営学の基礎的な知識の理解	講義で扱った基本的な用語や概念を自分で説明できる	講義で扱った基本的な用語や概念について、補助があれば説明できる	講義で扱った基本的な用語や概念を理解している	講義で扱った基本的な経済用語や概念について、補助があっても理解できない
経営学の知識を用いた企業行動の把握や分析	企業の諸特性や行動について理解し、議論や意見交換ができる	企業の諸特性や行動について概ね理解ができ、議論や意見交換ができる	企業の諸特性や行動について理解している	企業の諸特性や行動について説明を受けても、その内容を理解できない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ガイダンス、大勢で協働するための手段 (組織の定義、官僚制組織、科学的管理法など)	組織の必要性と、組織の管理方法ごとの特徴をまとめる	40分
第2回 市場環境に合わせた組織のあり方 (職能別組織、事業部制、マトリックス組織など)	組織の状況に応じて、適切な組織形態をまとめる	40分
第3回 報酬とやる気(ディスカッション含む) (動機づけ衛生理論、内発的動機づけなど)	人々にやる気を出させる要素とその特徴をまとめる	40分
第4回 組織の理念と文化 (企業理念、組織文化など)	経営理念が組織文化につながるまでの経路をまとめる	40分
第5回 リーダーの素質 (リーダーシップ論について)	リーダーに必要な条件を、状況ごとにまとめる	40分
第6回 選抜と配置と育成 (OJT、Off-JTなど)	"OJT"と"Off-JT"の役割と効果についてまとめる	40分
第7回 事業領域と多角化 (ドメイン、相乗効果、PPMなど)	企業の事業領域を調べて、その中心となっている要素を考える	40分
第8回 企業の良し悪しを測る方法 (SWOT分析、5つのカモデルなど)	ポーターが提唱した測定方法について構成要素と使い方をまとめる	40分
第9回 外注か内製か (モジュール、OEM、ファブレスなど)	企業の分業上の力の源泉について調べてまとめる	40分
第10回 企業とお金の話 (金融市場、持分と株式など)	企業の出資者とその目的についてまとめる	40分
第11回 どうやってお客を得るか (マーケティングのSTP、4Pなど)	マーケティングの"STP"と"4P"をまとめる	40分
第12回 海外への進出(ディスカッション含む) (多国籍企業、空洞化と技術の問題など)	身の回りの多国籍企業の本拠地をまとめる	40分
第13回 生産と品質の管理 (生産方式の変遷、損益分岐点など)	ベンチマーキングの方法についてまとめる	40分
第14回 新製品の開発と、市場の標準争い (デファクトスタンダード、肯定/否定技術など)	デファクトスタンダードとなっている製品をまとめる	40分
第15回 革新とその普及 (イノベーションの普及モデルなど)	革新の普及とその障害についてまとめる	40分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、講義後の演習課題を解き、配布資料をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。

各講義後に演習課題を出す。その演習課題全体で30%の評価配分とする。
残りは10%はディスカッションなど講義中の活動を評価対象とする。

課題に対してのフィードバック

演習課題については、Google Classroom のテスト付き課題機能を利用し、解答後に採点結果と正答、解説を表示する。

教科書・参考書

教科書：高橋伸夫(2016)『大学4年間の経営学が10時間でざっと学べる』, KADOKAWA
教科書掲載の図表を中心として、記述等も解説に利用する。

参考書：伊丹敬之、加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門』第3版, 日本経済新聞出版社